

からだのための命の経験、成長、務め

(金曜日——午前の第二の部)

メッセージ 2

天然の構成を対処して、復活の中にとどまる

聖書：I コリント2:14. ピリピ3:3-11. ヨハネ12:24-26

I. 命の経験の極めて重要な面は、天然の構成を対処することです——I コリント2:14.

ピリピ3:3-9:

- A. わたしたちが認識する必要のあることは、神の事柄において、わたしたちの天然の存在は、無能、不十分であるということです——II コリント3:5-6:
1. わたしたちは、他の事柄において十分であるかもしれませんが、わたしたちの天然の存在は、神の事柄において十分さ、能力、力を持っていません——エペソ2:1, 5前半. 4:17-18. I コリント2:14. エレミヤ17:9. ローマ6:6. 7:24. 8:7-8. マタイ16:24。
 2. わたしたちは、神の事柄においてわたしたちの天然の存在に信頼すべきではありません。反対に、わたしたちは天然の存在を拒絶して、あらゆる事においてわたしたちの霊を活用することを学ばなければなりません——ピリピ3:3. ローマ8:4。
 3. 主の回復の中では、わたしたちの天然の存在に地位はありません。主の回復の諸召会は、キリストの生けるからだの一部として、天然的なあらゆるものを自動的に拒絶します——I コリント12:12-13。
 4. 召会の建造において、わたしたちの中のあらゆる天然のものは砕かれなければならない、そうしてはじめてわたしたちは共に結合されることができます。わたしたちの天然の存在が砕かれてはじめて、わたしたちは建造されることができます——詩歌603番の6節と7節。
- B. 「天然の構成」という表現において、「構成」という言葉は、わたしたちの体力と知力の総合計を意味します——I テサロニケ5:23:
1. 天然の構成は、魂の人の際だった特徴であり、古い人を生かし出すことの顕著な表現です——I コリント2:14. ローマ6:6。
 2. 天然の構成は、古い人を生かし出すことの表現であり、人の能力、才能、知恵、聡明さ、計画、手腕と関係があります。ヤコブは、天然の構成の最も良い代表的な人物です——6節. 創28:20-22。
 3. 神は、単に天然的に能力のある人を用いることはできません。天然の能力は、砕かれることがなければ、神にとっては妨げです——32:22-32。
- C. わたしたちは、天然の構成を対処する経験の過程を理解する必要があります:
1. わたしたちの古い人はキリストと共に十字架につけられたことを、わたしたちは見る必要があります——ローマ6:6。
 2. 天然の構成は古い人のとても強力な表現であることを、わたしたちは認識する必

要があります。

3. わたしたちは、自発的にキリストの十字架をわたしたちの天然の構成に受け入れ、聖霊の力を通してキリストの十字架をわたしたちの天然の構成に適用するべきです：
 - a. わたしたちがキリストの十字架を受け入れて適用するとき、わたしたちの天然の能力すべては、死のしるしを帯び、徐々に衰えていきます——マタイ16:24。
 - b. このように受け入れることは、わたしたちの命における大きな霊的な岐路であり、わたしたちのペニエルとなるでしょう。そこにおいて、わたしたちの天然の能力と才能は神によって触れられます——創32:22-32。
4. わたしたちが天然の構成を対処するという経験を適用するのは、聖霊の交わりの中でであり、また聖霊がキリストの十字架をわたしたちの天然の命のあらゆる点に、それが見いだされるときに行使してくださることによってです——Ⅱコリント13:14. ローマ8:13。

II. わたしたちの天然の構成が対処されればされるほど、ますますわたしたちは復活の中にいるようになります——ペリピ3:3-11：

- A. わたしたちの天然の構成のすべての面は、天然の命から出て来るのであって、キリストの復活の命から生じるものではありません。天然であることの反対は、復活の中にいることです——11節。
- B. わたしたちが天然の構成を対処するのは、それによってわたしたちの生まれつきの能力、才能、知恵が、十字架の死を経過し、復活させられて、こうして神に受け入れられ、役に立つようになるためです——ヨハネ12:24-26。
- C. わたしたちの天然の能力が復活の中へともたらされなければならないのは、それによって主に役に立つようになるためです——ペリピ3:3-11：
 1. 天然の能力は、利己的であり、その計画や手段は自己のためです。復活させられた能力は、砕かれており、自己のためでなく、自己の要素もありません。
 2. 天然の能力は、肉や血気の要素と混ざり合っています。復活させられた能力には、肉はありません。
 3. 天然の能力は、こうかつさや駆け引きすることと関係があります。復活させられた能力は、陰謀を企てません。
 4. 天然の能力は、高ぶりを内容としており、自分自身に能力があると感じ、こうして自ら誇り、自らに栄光を帰すという結果になります。復活させられた能力は、高ぶることがなく、自らを誇ることもありません。
 5. 天然の能力は、聖霊の制御の下になく、極めて大胆になって何かを行なおうとします。復活させられた能力は、その霊によって制御されており、自分の願望にしたがってはあえて行動しません。
 6. 天然の能力は、神のみこころを顧みず、完全に自己の意志にしたがって行動します。復活させられた能力は、神のみこころのためです。
 7. 天然の能力は、神に信頼せず、完全に自己に信頼します。復活させられた能力は、

神に信頼し、自己にしたがってはあえて行動しません。

- D. 神は十字架を通して働いて、わたしたちを終結させ、わたしたちを終わりへともたらしめます。それによってわたしたちは、もはや自分自身に信頼せず、復活の神に信頼します——Ⅱコリント1:9。
- E. 「死人の中からの格別な復活に到達する」ことが示しているのは、わたしたちの全存在が徐々に、継続的に復活させられているということです。これが、クリスチャン生活の目標と目的であるべきです——ピリピ3:11。
- F. わたしたちはキリストの復活の中でキリストを経験するとき、「ナフタリ」の部族へと奥義的に移されて、霊的な「ナフタリ人」となります。あらゆるクリスチャンの個人的な歴史の一部分は、奥義的なものであるべきです。この奥義的な部分の中で、わたしたちはナフタリの部族へと移されて、復活のキリストによって生きます——歴代下2:14. 列王上7:14. 創49:21. 詩第22篇, タイトル。
- G. もしわたしたちが自分の天然の才能、能力、美德を十字架にもたらし、死ぬようにするならば、わたしたちは復活させられます——ローマ8:13. ヨハネ12:24:
1. その後、復活の中で、わたしたちの才能、能力、美德は、天然の命の中にあつたときより何倍もすばらしくなります。
 2. これらのものは、依然としてわたしたちのものですが、死と葬りを経過したので、今や復活の中にあります:
 - a. これが意味することは、わたしたちの才能、能力、美德が復活の中へと入ったということです——ピリピ3:11。
 - b. わたしたちは継続して存在しますが、わたしたちとわたしたちの天然の才能、能力、美德は復活の領域の中へと入りました——ヨハネ12:25-26。
- H. 復活の実際は、その霊です。そして、その霊は、三一の神の究極的完成です。ですから、復活は、究極的に完成された三一の神です——Ⅰコリント15:45後半. マタイ28:19. Ⅱコリント13:14:
1. わたしたちの天然の才能、能力、美德は、死と葬りを通して、わたしたちの天然の命から三一の神の中へと移される必要があります。
 2. わたしたちは、自分自身の中では天然的です。しかし、わたしたちは自分自身から、復活である三一の神の中へと移されるとき、復活の中へと入ります——ヨハネ11:25. Ⅱコリント1:9。
- I. わたしたちの天然の能力の「種」を地にまくことは、決して損失ではありません。なぜなら、わたしたちはこの種をまくとき、一時的にそれを失いますが、最終的には復活の中で収穫があるからです——ヨハネ12:24-26。

務めからの抜粋:

天然の力と能力を否む

わたしたちは、奉仕におけるすべてのことを肉体と成る原則において行なわなければなりません。肉体と成る原則とは、神聖な性質が人性の中に造り込まれることです。主イエ

スが地上におられた時、彼は神聖な要素で満ちあふれた彼の人性においてすべてのことを行なわれました。彼は彼の天然の力と能力を用いては何も行なわれませんでした。彼は、御父から離れては何事も行なうことはできないと言われました（ヨハネ5:19）。彼のすべての行ないにおいて、彼が語ったあらゆる言葉において、彼のあらゆるみわざにおいて、御父は彼の内側におられ、彼と一でした（14:10, 10:30）。彼が行なったことは何であれ、彼が語ったことは何であれ、彼が働かれたことは何であれ、全く神聖な要素としての御父と共になされました。わたしたちは、主の奉仕のためにわたしたちが用いる力と能力とが天然のものであるか、それとも神聖なものであるかを、考えてみる必要があります。わたしたちは自分の天然の力と能力を拒絶する学課を学ばなければなりませんし、またすべての聖徒がこの学課を学ぶのを助けなければなりません。

天然の力と能力は、神のみこころにしたがってではなく、自分自身で行動する

モーセもペテロも若いころは、神のみこころにしたがってではなく、自分自身で行動しました。今日わたしたちは、神のみこころにしたがってではなく、自分自身で、自分の力と能力にしたがって主のために行動し、奉仕をする可能性があります。わたしたちは、自分には力と能力があるので、祈ったり、主を待ち望んだり、主のみこころを尋ね求めたり、主の導きを仰いだりする必要はないと感じています。これはモーセに起こったことと全く同じです。彼はエジプト人を打ち殺して同胞のヘブル人を助けた時、このことを主のみこころにしたがってではなく、自分で行なったのです（出2:11-12）。今日のキリスト教における悲しむべき状況は、大部分、人が自分自身で、自分の力と能力によって主のために働いていることです。彼らは主の導きを求めて祈りません。彼らはただ、自分が行なうことを主が祝福してくださるようにと祈るだけかもしれません。彼らはあまり主のみこころを求めて祈りません。なぜなら、彼らは自分の力と能力に信頼しているからです。

天然の力と能力は、自分自身の栄光を求め、自分自身の願いを満たす

わたしたちが天然の力と能力によって働く時、その目標は、自分自身の栄光を求めること、その動機は自分自身の願いを満たすことです。わたしたちがこのビジョンを見るなら、利己主義と不純な動機は消滅するでしょう。実際に、主の働きにおいて、わたしたちは自分自身の願いを持つべきではなく、自分の栄光、自分の誇りのための目標を持つべきではありません。わたしたちは、ただ主がそうするよう導いておられる理由だけから、事を行なうべきです。わたしたちは自分の目標に達するという理由から、それらをすべきではありません。目標は主のものでなければなりません。

わたしたちの願いとわたしたちの目標を消滅させることは、わたしたちの力と能力を消滅させることです。わたしたちの栄光のための願いとその目標とは、わたしたちの天然の力と能力と一つです。この世の人々、また多くのクリスチャンでさえ、自分たちの願いと栄光のために、自分の力と能力によって事を行ないますが、わたしたちはこれを罪定めし、また拒絶しなければなりません。

天然の力と能力は、十字架によって対処される必要がある

天然の力と能力は、十字架によって対処される必要があります。罪に打ち勝つことと罪を対処することは、天然の力と能力を対処することほど難しくありません。わたしたちの天然の力と能力は、大きな主観的な学課です。それは罪を対処すること以上に主観的です。ある意味で、わたしたちの天然の力と能力は、わたしたちの自己、天然の構成と等しいです。わたしたちの天然の力と能力は、自己の具体的表現です。ですから、自己を否むことの後に、天然の力と能力を拒絶し、それを十字架によって対処するという学課が必要なのです。

天然の力と能力は、復活にあつて、主に奉仕するために有益になる

天然の力と能力は、十字架によって対処されるなら有用なものになります。十字架によって対処された後、それらは復活の中にあります。ある兄弟たちは生まれつきの雄弁さで語りますが、他の兄弟たちは十字架によって対処された雄弁さで語ります。これが復活の中の雄弁さです。経験に欠ける人は、生まれつきの雄弁さと復活の中の雄弁さに何の違いがあるのかと尋ねるかもしれません。それを説明するのは難しいのですが、もしあなたがその経験を持つなら、それを識別するのは容易です。経験のある人だけが、対処されていない天然の力と能力と、十字架の対処を通して復活の中にある力と能力との違いを識別することができます。

復活の中で、神聖なものがわたしたちの力と能力の中へと造り込まれました。ある神聖な要素までもが、わたしたちの雄弁さの中へと造り込まれました。わたしたちは語る時、わたしたちの雄弁は十字架によって対処される必要があります。十字架は常に、対処する人の中へと神聖な要素を造り込み、神を彼の中へともたらしめます。もしあなたが十字架によってあなたの雄弁において対処されたことが決してなかったなら、それは神聖なものが何もない天然の雄弁です。しかし、あなたの雄弁が対処されたなら、そのような雄弁は復活の中にあり、神聖な要素で満ちています。天然の雄弁には、神がありません。しかし、復活の中で「対処された」雄弁は神に満ちています。対処された後、わたしたちの力と能力は、わたしたちの主への奉仕のために復活の中で役立つようになります。（奉仕についての基本的学課、第20課）

天然の構成と復活の命との違い

わたしたちは天然の構成を、人の能力、才能、知恵、聡明さに属するものと定義しました。なぜなら、これらすべては、わたしたちの天然の命から出ているのであって、神の復活の命から出ているのではないからです。これらは生まれつき持っているものであって、キリストにある砕きを経過して復活から出たものではありません。天然の構成と復活の命は大いに異なっています。わたしたちが天然の構成を対処することは、わたしたちが生まれつき持っている能力、才能、知恵、聡明さが、十字架の死を経過して、復活させられ、こうして神に受け入れられ、神に役立つようになるためです。

天然の構成を対処することについて聞くと、ある人々は、神はわたしたちの能力や才能

を必要としていないのかと考えます。この概念は間違っています。神に用いられるためには、わたしたちには確かに能力や才能を必要とします。

聖書の啓示から、地上での神の働きは人の協力を必要とすることをはっきりと見ることができます。人が能力や才能を持たずに神と協力することは不可能です。木や石が神と協力することができないように、愚かで無能な人は神と協力することができません。賢い人は神の前に役に立たないと言いますが、いいかげんな人はそれよりも悪いのです。才能のある人は神の前に役に立たないと言いますが、無能な人はそれよりもさらに悪いのです。事実、この世で役に立たない人々は、また神の御手の中でも役に立たない人々です。歴代、神に用いられてきた人々は、すべてこの世から獲得された、有能な人々でした。モーセは才能、洞察力、知恵、聡明さを備えた人であったことを認めなければなりません。ですから、神は彼を用いて、イスラエル人をエジプトから救い出すことができました。さらに彼を通して、旧約聖書の中で最も重要な書、すなわちモーセ五書が書かれました。またパウロも大いなる教養と豊富な思想を持った有能な人であったことを認めなければなりません。ですから、彼は神から啓示を受けて、それによって新約聖書の中の深くて高い真理を書くことができました。ペテロとヨハネはガリラヤの漁夫にすぎませんでしたが、彼らは最良の漁夫で、決して普通の人ではありませんでした。

霊的な働きの最大の原則は、人が神に協力することです。神は何でも行なうことができますが、すべてのことにおいて神は人の協力を必要とされます。何もできない人、何も知らない人、無能で何のやる気もない人は、神に用いられるはずはありません。わたしたちは、兄弟姉妹が「神はそれをする事ができると信じます」と言うのをよく聞きますが、彼らは自ら進んで協力しようとしません。この種類の信仰はむなしいです。確かに、神はそれをする事ができますが、人がそれをする事ができることも必要です。人がそれをする事ができなければ、たとえ神にはする事ができても、神はそれをしようとなさいません。神は、有能な人々、そして進んで神と協力する人々を捜さなければなりません。神は、人の能力の程度まで働かれます。神は、人がどれほど協力するかにしたがって働かれます。ですから、わたしたちは、有能で才能のある者とならなければならず、あらゆる面で役に立つ者となることを学ばなければなりません。そうすれば、わたしたちは神が用いるのにふさわしい者となります。

しかしながら、神は、単に天然の有能な人を用いることはできません。天然の才能は砕かれない限り、神にとっては妨げです。それは砕かれなければなりません。それは、神に用いられるためには、死を経過して、復活させられなければなりません。天然の能力は未加工の鉄に似ています。未加工の鉄は、あまりにも固くてもろいので、使用に適していませんし、容易に壊れてしまいます。復活した能力は、錬鉄のようであり、堅く、しかし順応性があり、使用に適しており、容易には割れません。ですから、神は無能な人を用いることはできませんし、有能であっても砕かれていない人を用いることもできません。神の御手の中で用いられる人々は、有能ではあっても、その能力が砕かれた人々です。歴代、神に用いられた人々を調べてみれば、ほとんどすべての人々は、有能で、魂の力に富んでおり、洞察力と賢明さを持った人々であり、同時に神によって砕かれた人々でした。

聖書の中で最も顕著な例は、ヤコブです。彼についてはすでに語ってきました。生まれつき彼は有能で手腕家でした。しかしある日、彼は神に砕かれてイスラエルとなりました。そして彼は自分の有能さと手腕を失いました。しかしながら、ヨセフの二人の息子を祝福したとき、彼は決してあまいではありませんでした。彼は非常にはっきりしていて、また洞察力を持っていました。さらに、彼が自分の子供たちに命じた祝福は（創世記第49章）、聖書の中の大いなる預言です。それらの言葉は、真に高く、素晴らしいです。もしヤコブが無感覚で愚かな人であったとしたら、このような言葉を口にすることができたでしょうか？ 他方、もしヤコブが自分の天然の思い、天然の思想や能力に頼っていただけであれば、このような言葉を口にすることもできませんでした。彼の天然の思い、天然の思想、天然の能力は、神によって砕かれたので、復活させられ、霊的になりました。こういうわけで、彼は神によって用いられて、それらの偉大な預言をすることができました。

同じ原則が、わたしたちが神のみこころを知ることに適用されます。神は、極めて賢く知性のある神です。ですから、彼のみこころを知るために、人の知恵と知性もまた欠くことができないものです。愚かな人は神のみこころを理解することはできません。また自分の知恵と知性だけに頼る人も、神のみこころを理解することができません。必要なことは、人が知性と知恵と明晰な思考を持ち、これらすべてを十字架の下に置いて、十字架にそれらの上に死のしるしを押しただくことです。このような人は、自分の思い、知恵、思想を持っていますが、物事を自分によって、自分のために、あるいは自分に頼って行なうことはしません。彼はただ神によって、神のために、神に頼って用いられます。彼は自分の目的や自己の要素を持っておらず、ましてや自分の戦略的な手腕も持っていません。彼は、ただ神のあわれみに頼り、神の訪れを待ち、神の啓示を求めます。このような人だけが、神のみこころを知ることができ、また神の導きに関してはっきりしている人です。

このことから、天然の能力や才能は、対処された後に無駄にならないことを知ります。十字架によって砕かれることと死に渡されることは、最終段階ではありません。真の十字架の死はいつも復活をもたらします。ナザレ人イエスは十字架で殺されましたが、キリストは復活しました。創世記第35章以後、ヤコブは完全に対処され、終わらせられましたが、円熟したイスラエルが出てきました。ですから、十字架の対処は常に復活をもたらします。ある人の能力が十字架によって対処されればされるほど、さらにその人は有能になります。ある人の知恵が十字架によって対処されればされるほど、さらにその人は賢明になります。さらにまた、この能力と知恵は復活の中にあります。

こういうわけで、一方でわたしたちは人々に、彼らが有能な者になるようにと、聖書を読み学ぶこと、彼らの思いと洞察力を訓練すること、人としてどのように振る舞うべきかを学ぶこと、物事の取り扱い方を学ぶこと、どのように働くかを学ぶことを勧めます。他方において、教育も才能も役に立たないと、わたしたちは常に人々に言います。このように言うのは、これらは砕かれて復活させられなければならないことを意味しています。この二つの面は、一見すると互いに矛盾していますが、わたしたちにとっていずれも実際の絶対が必要です。

天然の能力と復活させられた能力とは、どのようにすれば識別することができるのでし

ようか？ どちらが生まれつきの能力で、どちらが砕かれた能力であると言えるのでしょうか？ 比較する点が七つあります。最初に、天然の能力について見ましょう。

第一に、すべて天然の能力は自己中心で、そのすべての計画と手腕は自分のためです。第二に、すべて天然の能力は、肉と血気の要素とが混ざり合っています。ですから、よしとされないと怒ります。第三に、すべて天然の能力は、狡猾さと策略を含んでいます。第四に、すべて天然の能力は高慢を含み、自分自身を有能だと感じさせ、それによって誇り、自己に栄光を帰します。第五に、すべて天然の能力は聖霊の制御の下にありません。そして非常に大胆に、何でも行ないます。第六に、すべて天然の能力は、神のみこころを尊重しないので、完全に自己の意志にしたがって行動します。第七に、天然の能力は神に頼りませんし、また神に頼る必要もなく、完全に自己に頼っています。

復活させられた能力は、正反対です。第一に、砕かれて復活させられた能力は自己のためではなく、自己の要素を少しも含んでいません。第二に、すべて復活させられた能力には肉の要素が全くありません。第三に、復活させられた能力は陰謀を企てません。第四に、復活させられた能力は高ぶることがなく、自らを誇りません。第五に、復活させられた能力は聖霊によって制御されており、自分の願望にしたがってはあえて行動しません。第六に、復活させられた能力は、神のみこころのためです。第七に、復活させられた能力は、神に信頼し、真に有能であり才能があっても、自己にしたがってはあえて行動しません

わたしたちは天然の能力と復活させられた能力との違いがはっきりしましたから、自分の経験を調べる必要があります。わたしたちが自分の能力を活用するとき、それは自分のためでしょうか、それとも神のためでしょうか？ わたしは自分で決心して、単独に自己中心的に行動しているのでしょうか、それとも他の人の非難を甘んじて受け、彼らの反対を受けることができるのでしょうか？ わたしは策略を練るのでしょうか、それとも神の恵みに頼るのでしょうか？ わたしは神に栄光を帰すのでしょうか？ それとも自分自身を誇り、自分自身に栄光を帰すのでしょうか？ わたしは聖霊によって制御されているのでしょうか、それとも自分の好きなように行動しているのでしょうか？ わたしは自分の願望を満たしているのでしょうか、それとも神のみこころを顧慮しているのでしょうか？ わたしはいかなる手段を用いても目標に達しようとしているのでしょうか、それとも神の御手にすべてをゆだねて、その結果を神に信頼しているのでしょうか？ わたしはただ自分の力に頼っているのでしょうか、それとも、恐れおののいて神に頼っているのでしょうか？ もしわたしたちが自分自身を厳格に調べるなら、わたしたちの生活や奉仕において、多くの部分が依然として天然の構成の中にあり、旧創造に属することを発見するでしょう。ですから、わたしたちは復活の実を生み出すことができません。このゆえに、天然の構成を対処することは、わたしたちが最も必要とする救いです。（命の経験、第11課）